



全ては子供たちのために！～ステキな先輩に学ぶ～

八嘉小学校には、「元気いっぱい、花いっぱい、ぬくもりいっぱい、笑顔いっぱい」という合言葉があり、みんなが知っています。しかし、その心を、改めて考えたことがあるでしょうか。私は、そのことを子供たちに考えてほしいと思っていました。

1月15日（金）に、「八嘉花づくり委員会」の西住会長、廣田事務局長、今村委員さんをお招きして、6年生に「花いっぱい」の理由について、お話をいただきました。

今から30年ほど前、平成時代のはじめのころのことです。その当時のPTAで、「子供たちのためにより環境づくりをしよう」ということで、高永PTA会長さんを中心に、八嘉小の花壇をつくられたのだそうです。また、同じ頃、ドライブイン仔馬の前の空き地に花を植え始めた方がおられました。その方も八嘉小の保護者でした。（PTA会長さんとはご夫婦でいらっしゃったそうです）

それより以前から、国道沿いには、「ポイ捨て」が多く、東部商店会の方々は、年に数回、早朝から田崎交差点から菊池川までの国道沿いの清掃活動をされていました。しかし、様々な理由から、活動は縮小していったそうです。一方で、「花が植えられているところには、ゴミは捨てられていない」という気づきがあり、「花」の力を感じていたのだそうです。

仔馬の前の花づくりの活動は、仲間が仲間を呼び、次第に大きくなってきました。「もっと花壇を大きくして、たくさんの花を植えよう」。そのためには、お金もたくさんかかりますし、組織をしっかりしたものにする必要がありました。そこで、「八嘉花づくり委員会」をつくり、玉名市や国土交通省と話し合っ、場所や物資、補助金の提供を受けることができるようになったのだそうです。それが今から20年ほど前のことでした。

ゴミ拾いも花づくりも、「子供たちのためにいい環境をつくってあげよう」「玉名市の玄関口である八嘉を美しくしよう」という思いから始められたそうですが、郷土愛にあふれた人たちが集い、協力しながら活動をするうちに、お互いの人間性にひかれ、友となり、仲間となっていかれた様子がよく分かりました。「体はあちこち痛いけれど、花を植えているうちに、不思議と痛くなくなってくる」とも話されました。みなさん、それぞれに仕事や地域での役割をもって忙しくされています。そんな中で「楽しか」と言いながらボランティアを続けておられるのです。本当に素敵ですし、子供たちには先輩方からいろいろなことを感じ取り、学び取ってほしいと思います。そして、八嘉小が「元気」「花」「ぬくもり」「笑顔」いっぱいであり続けるように、その心と活動を引き継げる大人になってほしいと願います。当時30・40歳代だった方々が、70歳代となり、若い力を必要としているからです。時代は変わりますが、バトンを受け継ぐ人が、八嘉のよさを守り、伝えてほしいのです。

子供たちへのメッセージ

今村さん

「自分がいいと思うことは続けてください。そうすると、それが習慣になります」

廣田さん

「二度とない人生だから、楽しんでください」

西住さん

「人の痛みが分かる人になってください」



裏面に子供たちの感想を掲載しています。ぜひお読みください！

